先住民から信頼を得た陳 振川・復興委員会副幹事長

有機野菜の販売

大愛集落脇に設けられた永齢農場での有機栽培

台湾赤十字により建設されたことを示す旧小林(シャオリン)村の移転先の新集落(高雄市)(撮影:柯)

台湾・モラコット台風被害復興プロジェクト

写真提供:台湾行政院・モラコット台風復興委員会(特記以外)、柯 武徳(正修科技大学 助教授)
文・構成:柯 武徳(正修科技大学 助教授)

関連記事:「この人に聞く(8～9頁)」、「トピックス(107～116)頁」

台湾史上最悪の自然災害となった2009年8月のモラコット台風被害からの復興プロジェクトでは、民間の力を活用し、家を失った被災者に永久住宅を迅速に建設して無償譲渡し、農業のための土地を失った被災者には新たな生計手段を創出した。これらは、政府のモラコット台風復興委員会の陳 振川副幹事長(台湾大学土木工学科教授)の指揮によるところが大きい。復興計画に当初猛反対であった被災者の大部分を占める少数民族である先住民の信頼を得たことにより進捗したプロジェクトである。ここでは、新たに建設された九つの集落のうちの二つと有機農場を紹介する。

大愛集落の永久住宅(高雄市)(撮影:柯)

禮納里集落の永久住宅(屏東県)

新たに建設された禮納里(リナリ)集落(屏東県)

新たに建設された大愛(ダアイ)集落(高雄市)